

秋季高校野球 東北地区大会

第76回秋季東北地区高校野球大会第3日は18日、秋田県横手市のグリーンスタジアムよこてで2回戦3試合が行われた。青森第2代表の八学光星は序盤から優位に試合を進んで仙台一(宮城⑤)を5-2で下し、8強入りを決めた。青森第3代表の弘学聖愛は延長十回タイブレークの末、鶴岡東(山形①)に5-7で敗れた。岩手第2代表の久慈は足尾農秋田①と接戦を繰り広げたが、延長十回タイブレークの末、2-13で頓り負けた。

第4日の19日は、グリーンスタジアムよこてで秋田市まちスタジアムの2球場で準々決勝を行う。青森第1代表の青森山田は鶴岡東、八学光星は日大山形山形②と4強入りを懸けて対戦する。

(千葉達也、磯野雄太郎)

光星ベスト8進出

序盤に主導権、仙台一破る



【2回戦・八学光星 仙台一】4回八学光星1死満塁、竹田智紀が中前通時打を放ち、4-0となる。横手市グリーンスタジアムよこて

春の雪辱に燃える相手をかかわす

春のリベンジに燃える相手を探り切った。2季連続の甲子園出場を目指す八学光星は前半に小刻みに得点を重ね、初戦を突破。仲井宗基監督は「流れを完全に持ってこれなかったが、勝てたのが何より」と安堵の表情を浮かべた。

今春の東北大会1回戦で快勝した仙台一と再びぶつかった。先発は秋の青森県大会で好投したサイドスロー左腕・森田智晴。序盤から伸びのある直球で押し球がさえ渡った。制球を乱した七回に通時打を浴びて2点を失い、県大会から続く無失点ピッチングは途切れたものの、7回を粘り投じて試合をつくった。

野手陣も森田の力投に発奮した。3点を先行した四回、1死満塁の場面でもリードオフマンの竹田智紀が打席へ。第1打席は見逃し三振に倒れたが、相手先発を観察して球種を判別できる癖を見抜いていた。その読み通り、真ん中低めの直球を仕留め、中前へしぶと通時打。「センター返しに意識が簡単に結び付いた」と誇らしげにならずいた。砂子田陽主将も犠飛を続き、着実に点差を広げた。

県大会決勝では走塁やサインのミスが相次ぎ、青森山田に敗れて優勝を逃した東北大会までの約2週間、実戦練習を軸に調整してきたという。

ただこの試合も走塁ミスがあり、五回以降は無得点で終盤に突き放せない要因の一つになった。「もう一回みんなで話し合って準々決勝に向かう」と竹田。「個人としては出塁する役割を全うして、勝利に貢献したい」と意気込んだ。(千葉達也)

ハイライト

球種を判別できる癖を見抜いていた。その読み通り、真ん中低めの直球を仕留め、中前へしぶと通時打。「センター返しに意識が簡単に結び付いた」と誇らしげにならずいた。砂子田陽主将も犠飛を続き、着実に点差を広げた。